

道岳連だより

広報 NO.87
令和元年 9月 10日
北海道山岳連盟

<http://www.hokkaido-haa.net/>

第33回北海道山岳連盟 交流登山会南空知大会

8/24-25 全道各地から岳友 184 名が集う



岩見沢山岳連盟 後藤孝仁会長のメッセージ

この度の北海道山岳連盟主催の全道交流登山会南空知大会に参加頂きありがとうございました。目玉だった美唄山の閉鎖で、本来の目的であった登山ではしっかりとしたおもてなしが出来ず申し訳ない気持ちで一杯でしたが、心を込めたおもてなしに努め、地域の情報交換と親睦と交流の場を設けることができたことに安堵しております。

南空知は道央圏で大動脈の国道12号線や道央道が貫く街ではあるものの、通過することが多い都市です。今回、全道交流登山会の機会を頂き、全道の皆様に2日間に渡り岩見沢を觀てもらう機会を与えて頂いたことに感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

第33回を迎えた北海道山岳連盟交流登山会は、岩見沢山岳連盟、美唄山岳会、登攀道場美唄が主管し、岩見沢グリーンランドスキー場のロッジを会場として開催した。登山会には加盟28団体184名が参加した。

1日目は13時から受付を開始し、15時から鎌田耕治前北海道山岳連盟会長及び佐藤健前岩見沢山岳連盟会長の「偲ぶ会」を行い、両氏の功績を偲び全員で黙祷を行った。その後の開会式では、大会長の小野道岳連会長、大会実行委員長の宮西博美唄山岳会長から挨拶、大会登山本部長の山田恭久氏より各コースの説明を行った。今大会で131名が希望していた美唄山は、8月上旬の下見の際登山道にて親子熊が出没し、立ち上がり威嚇したことを考慮した結果、安全が確保出来ないため中止となった。宮西美唄山岳会長より中止を決定するに至るまでの詳しい説明があり、みな納得の様子だった。16時30分から交流会を開始し、ビンゴゲームも行い大いに盛り上がった。

2日目は利根別自然休養林9Kコース・4kコースと馬追山コース、また美唄山から変更し各自計画した浦臼山・マチネシリ等々に出発、美唄市体育センターではクライミングも行われた。岩見沢では大会前日まで雨が続き、テント設営等の不安はあったが、大会の二日間は好天に恵まれ無事大会を終了することができた。

記 K・T

2019 山の日記念「ふるさとの山へ登ろう」

2014年に8月11日を国民の祝日として制定された山の日は「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する」ことを趣旨とし、全国各地で山の日になんだ催しが行われている。北海道山岳連盟の取組みは、以下に記載する各岳連や山岳会で登山会が実施されているが、昨年度の14団体からは減少している。

6月2日⇒標津岳（釧路山遊会） 6月9日⇒南ペトル山（釧路山岳連盟） 7月28日⇒ニペソツ山（釧路山の会 白湯山倶楽部） 8月11日⇒（函館マウンテンクラブ） 8月11日⇒塩谷丸山（恵庭山岳会） 8月11日⇒室蘭岳（室蘭山岳連盟） 8月11日⇒カムイヌプリ（登別山岳会） 9月1日⇒稀府岳（札幌山岳連盟） 9月1日⇒樽前山錦岡コース（苫小牧山岳会） 9月8日⇒旭岳～裾合平（札幌山の会） 9月8日⇒斜里岳（釧路山遊会） 9月29日⇒三國山（釧路山岳連盟）



全国的には、山梨県甲府市で第4回「山の日」記念全国大会が8月11日に開催され、3万人規模のイベントが展開された。

なお、2020年の「山の日」は、東京オリンピックの閉会式の翌日にあたる8月10日(月)に変更される。

HOKKAIDO OUTDOOR FESTIVAL2019 in ルスツ

2019年9月22日(日)トレイルランニング大会



昨年の大会の様子

北海道アウトドアフェスティバル2019inルスツは、9/21 ロゲイニング大会、9/22 RUN TO GIVE 2019、9/22 トレイルランニング大会が、ルスツリゾート、尻別岳、貫気別岳周辺で開催される。

クラスは60km、30km、15km、0.5km、キッズの5種目で、60kmは3:30スタート。今回は、あの鏑木毅さんが久しぶりに参加し15kmに出場、前日にはトークショーも予定されている。

60kmの男女86名をはじめ、各クラス合計287名がエントリーしている。北海道山岳連盟は共催団体として、今年も多く役員を派遣し、大会を支える。

行事・各委員会事業報告

令和元年度総会・第1回理事会 5/12 札幌エルプラザ

北海道山岳連盟令和元年度総会・第1回理事会は、去る5月12日(日)札幌エルプラザにおいて、加盟山岳連盟・山岳会の代議員46名(委任状22名)の出席のもと開催された。

小野会長は挨拶の冒頭、逝去された鎌田前会長、岩見沢の佐藤健さん、小樽の青山さん、西さん、十勝の掘田さんに弔意を表し功績を讃えた。また、今後の道岳連のあり方について、名称の変更と法人化が要請されていることを述べた。

その後、議長に小樽山岳連盟佐藤代議員、札幌山岳連盟野田代議員を選出し議事に入った。1号議案「平成30年度を振り返って」で、明田理事長は日本山岳・SC協会の全国理事長会議の内容を紹介、各スポーツ団体同様にガバナンス強化が求められていること、60周年事業も控えているなど、日本の登山界をめぐる全般的な情勢の報告があった。その後、道岳連の平成30年度事業及び業務がほぼ予定通り行われたこと、組織活性化を狙って、山岳スキー、個人会員を独立した委員会にすべきとの意見があり、今後の検討について言及した。

2号議案「平成30年度事業報告」、3号議案「平成30年度収支決算報告」は、各委員会委員長及び担当者が報告、質疑なく承認。4号議案「会計監査報告」も承認された。5号議案「令和元年度に向けて」で理事長は、①日山協はスポーツライミングの組織体制が確立し、都道府県連盟の名称変更と法人化が要請されている。設立資金12万円と毎年7万円かかる②夏山リーダー制度がスタート③全国レベルの研修会「安全登山指導者研修会」が9月に東川町において道岳連主管で開催されることを説明。6号議案「令和元年度活動方針及び事業計画(案)」、7号議案「令和元年度会計予算(案)」、第8号議案「備品台帳報告」は事務局長、各委員会委員長が説明し承認。第9号議案 加盟申請は、理事会の承認を経ている「くしろ山岳会」の入会を報告。第10号議案「道岳連顧問推薦」では、佐藤前副会長が就任を固辞し議案取り下げ。第11号議案「各種議題」は、安全登山シンポジウム、スキーDVD、山の日記念登山、全道交流登山大会南空知大会、北海道アウトドアフェスティバル、道岳連リーフレットなどについて、担当者から説明された。

その後、小野会長が重要課題について出席者に意見を求めた。○道岳連名称変更、法人化 → 準備が大変、専任スタッフ必要で物理的に無理ではないか ○名称変更 → 引き続き検討 ○日高登山研修所の存続 → 苫小牧山岳会はロッジ返却、水害のリスク高いなどの意見が出された。

総会に引き続いて開催された第1回理事会では、会長が重要課題に対する加盟団体の意見・意向提出を再度要請した。その後、出席代議員、理事がそれぞれ、自己紹介や所属団体の近況を述べ、15時に閉会した。



令和元年度総会

カムイエクウチカウシ山入山自粛要請

日高山脈カムイエクウチカウシ山でヒグマによる人身事故が、今シーズンに入って2件発生しており、このヒグマはこれからも人に危害を加える恐れがあるため、同山への登山自粛を強くお願いしたいとの要請文を「北海道庁生物多様性保全課動物管理グループ」が発した。

第11回 安全登山シンポジウム 5/30 札幌エルプラザ

北海道山岳遭難防止対策協議会と北海道山岳連盟が主催する「第11回安全登山シンポジウム」が、5月30日札幌エルプラザ3Fホールで開催され、約140名が参加した。

特別講演講師の北海道警察地域部地域企画課指導官西村和隆氏は、北海道内で増加する山岳遭難事故の事例をもとに、その実態を説明した。なかでもバックカントリーの外国人、山菜採りの道迷いの増加を分析し、事故の防止を訴えた。

AUTHENTIC JAPAN 代表取締役の久我一総氏は「ココヘリの今(山岳遭難予防の新しいツール)」で、



シンポジウム会場(札幌エルプラザ)

元々は、認知症徘徊者の捜索用に開発された。現在年会費3,650円の有料会員数は2万人。過去1年間の発見実績は100%で、群馬県武尊山のスキー場では今年4月からココヘリの携帯が義務づけられた。システムは、発信機(子機、会員が持つ)と受信機(親機、民間・救助組織のヘリに搭載)から成り、子機は20gで最長16km先まで電波を送ることができるという遭難時の位置情報に関する新たな情報システムを紹介した。

筑波大学山岳科学学位プログラム在籍の久保田賢次氏が、「山岳メディアでの経験から見みる山の事故対策と環境保全」と題し講演。学生時代からの山岳団体所属や「山と溪谷社」「岳人」編集部勤務の経験を通じて得られたた登山者の傾向などを分析し、中高年のみならず、各世代に渡る山岳事故に、登山者の危険に対する認識力や計画性の欠如を指摘した。

夏期遭難対策研修会 5/18-19 日高登山研修所及び周辺

令和元年5月18日～19日にかけて、夏期遭難対策研修会を日高登山研修所で開催した。一般登山愛好者10名、山岳会員16名、講師4名、総勢30名いつになく大勢であった。

1時間目は、10年前にトムラウシ山で低体温症により亡くなった9名の遭難事故の事例を取り上げ、低体温症の起きた環境、低温と強風の中で個々の生死を分けた対応と行動。症状の早期発見と低体温症の対処法、風の中でお湯を早く沸かせる器具やプラティパスボトル、ペットボトルを夏冬使える保温袋に入れて行う手当について研修を行った。

2時間目は、次の日に行うロープ渡過の予備実習を行い、3分の1を使うロープの張り込み方、外し方。続いて野外においてセイラー渡過とモンキー渡過の練習を行った。

夕食は、すき焼きに近くで採取したギョウジャニンニクに舌鼓を打ちながら賑やかな交流会となった。

2日目は、7時30分、いよいよ総合研修、玄関前に3班に分かれ、それぞれ決められた班ごとに500m離れた砂防ダムに向かった。Vの字谷にある1段目と2段目の間のフィールドで、3箇所手順とおり3パターンの渡過用ロープを張り ①砂防上部より下部対岸まで45m ②川を挟んで20m2重にロープを張る ③斜面上部から対岸まで30m いずれも立木を支点として、セミスタックロープを使い、ノー・ノット・アンカー、ラップ・スリー・プル・ツー、バタフライノット、ガルダーヒッチ、ブルージック、セミオートを駆使し、人が乗っても垂れ下がらない強度で張り込みを行った。

ハーネスを着用、一人ずつ対岸に向かって最初はセイラー渡過、途中バランスを崩すとモンキー渡過で対岸まで渡り、全員無事に研修を終えました。最後にそれぞれのリーダーから ①頭の中では一応覚えている、実践の中ではなかなか技術の応用ができなかった。②目的は同じでも、色々な技術方法があり勉強になった。③一度行っても忘れることが多く、何度も繰り返すことが大事と思う。講師からは、常にアンカーを取り、自身や仲間の安全に心がける。常にロープの結び方を練習し身につける。セルフレスキューの原則、まずは自分の命、仲間の安全、要救助者の命である。

【スタッフ】 齊藤 邦明 仲井 信夫 為野 宜己 高見 直広(補助)

(報告 遭難対策委員長 齊藤 邦明)



一日目の渡過訓練



参加者全員で集合写真

東北 山スキーツアー 4/29-5/3 鳥海山

“鳥海山 山頂は遥か雲のなか” 東北山スキーツアー第4弾「鳥海山・日本海プルー大滑降

4月30日午後は大平山荘に到着。偵察山行を予定していたが、天候が悪く“雪の回廊”に登山口の確認をして終了する。

翌日、令和元年の初日、いよいよ出発。気温高くアウター脱いで歩き始める。雪質はシールが程よく効く柔らかさ、雲は1400m付近まで垂れて直ぐその中に突入しそうだ。出発地点からは山の様子を伺えないが、最初の斜面を上がる様子が見えてきた。此处から稜線迄は斜面が少し緩やかになり歩き易い。しかし、直ぐに雲の中に突入し小雨と風が出て来て、眼鏡に水滴が付いてきた。この辺りから先行パーティが下山し始める。聞くと「視界不良で帰ってきた」との事、時間が早いので我々はせめて御浜小屋迄は行きたいと続行する。下山準備のパーティの脇を通ると先行者は居なくなり、トレースも無くなった。

視界不良のホワイトの中を歩くには少々嫌らしい。稜線に出る。今は筧ヶ岳の陰で風は無いが高度を上げると強風が予想される。特に下山時の強風の中をスキーで下るのは危険が伴うので此处で撤退する。GPSでは筧ヶ岳Ⅲ峰であった。視界不良のホワイトの中をはぐれない様に、コンパスを当てなくとも良い斜面が出る迄はシールのまま移動する。標高1500m付近でシールを外して待望の大滑走し、登山口まで一気に滑り終えた。



筧ヶ岳Ⅲ峰(1650m)にてホワイトアウトにて退却

(記 西嶋)

参加者感想 強化合宿スノーシュー班に参加して 札幌山の会 林 清恵

「令和」初日の朝を鳥海山の太平山荘(1080m4 合目)で迎える事ができた。前日よりの雨に続き早朝は小雨模様となったが、山荘出発の頃には晴れてきた。鳥海ブルーラインの駐車場近くには、まだ数メートルの雪が積もっている。冬道の登山口はそこからすぐ上にある。ビーコンチェック、体操後にスキー班のあとに続いて登って行く。最初から急登となっており、運動不足と体重増加ぎみを反省しながら、遅れないように進む。時折振り返ってみると眼下には雄大な日本海の絶景が広がっている。180度仰ぎ観ることができ最高の景色である。陽も差しており海も青く見えて美しい。雪は少し固めだが歩き易い。何度か休憩を取りながら登っていく。しばらく進んだが、天候が変わりやすいため1360m地点になると小雨模様と強風になってきた。非常に残念だったが、スノーシュー班は撤退することになった。スキー班とはここで別れ、写真撮影後下山開始した。帰りは絶景の日本海を観ながらゆっくり下山を楽しんだ。目標地点には辿り着けなかったが、最初に素晴らしい景色を堪能でき、鳥海山に登れたことを皆で喜んだ。スキー班の藤木さんにはスノーシュー班と一緒に行動して頂きまして、大変お世話になりました。スキー班も、やはり悪天候のため下山となり、昼前には一緒に大平山荘へ戻った。午後からは近くの十六羅漢岩などを観光させて頂いた。またいろいろな山岳会の方々と、とても楽しく交流できました。長時間運転をして頂きました田原さん、お世話頂きました藤木さん、たか子さん本当に有り難うございました。

参加者感想 山岳スキーツアー鳥海山に参加して 登別山岳会 渡邊 良久

平成31年4月29日(月)から5月3日(金)の日程で、山岳スキー技術研修・強化合宿「鳥海山」に参加しました。

4月29日、苫小牧西港フェリーターミナルに集まって(16名)、夕刻苫小牧を出港した。4月30日早朝、八戸港に着く。マイクロバスに乗り鳥海山へ。昨日まで晴天が続き、後半の連休も良いはずだったが芳ばかしくはなかった。予定では鳥海山の途中にある笹ヶ岳まで登り滑降の予定。しかし、天候が芳ばかしくはないということで予定を変更。運転手の好意で花立牧場公園へ寄り道。景色を見ながら雑談していると突然満開の花が咲く桜並木道、車内は感嘆の声が沸き上がった。宿舎



の大平山荘に着き、時間があつたので吹浦コースの下見をした。登山口は除雪した際の雪の壁ができていた。急ではあるがスキーで登った形跡があつた。次、100mぐらい先に行くと登山道ではないが、沢系のゆったりとした斜面に登った形跡がある。象潟コースまで足を延ばし登山道の状況を見た結果、真ん中の沢地形を登ることになった。山荘の夕食をとり、途中で購入した数種類の地元の酒と、道岳連会長から頂いた酒を飲み比べ、山の話に花を咲かせ、明日の天気不安を覚えながら就寝した。

令和元年5月1日、5時30分起床。早めの朝食をとり登山口へ。準備体操をして山スキー12名とスノーシュー3名で7時35分出発。登り始めは日本海がよく見え寒くもなく上々の山行日和、上に上がるにつれ南風が強くなり、濡れないまでも顔に水滴が当たるようになっていた。だんだんホワイト状態になり、周りが見えない。ここでスノーシュー班下山と判断、藤木(晴)氏と共に下山。スキー班は地図とコンパスを頼りに頂上を目指す。10時頃、鳥海湖の見える笹ヶ岳Ⅲ峰(1,650m)まで上がった。ドロップインしたいところだが霧が立ちこみまるで見えない。リーダーがこれからも

天気が良くなると下山と判断、記念写真を撮り下山。周りが見えて滑走のできるところまでシール走行。下の様子が見えてきたのでシールを外し班ごとに滑走した雪は、ザラメで波をうってはいたが滑るのには苦にならない雪質で、気持ちの良いスキー滑走だった。11時30分、早い下山だったがすでにバスが待っていた。大平山荘に戻って後片付けと入浴を済ませた。まだ、飲むには早いということで町まで下って遊佐町にて十六羅漢岩の観光をする。海岸の岩場を削った見事なものだった。近くの道の駅に寄り、山荘で飲む酒を買い求めた。山荘に戻り食事前の懇親会、夕食を済ませ部屋に戻り明日の天候を調べたら、強風が吹き荒れ山行どころではない。滑ることをあきらめ夜遅くまで酒を酌み交わした。

5月2日、朝湯をして朝食、窓の外を眺めると強風で木がゆれ、周りは霧の中に、やはり滑れる状態ではなかった。バスに荷物を積み込み鳥海山を離れ一路八戸へ。昼食のため八食センターに入ったが、食堂や販売店は人・人・人。長蛇の列で買い物も食事もできそうもない。仕方なく、弁当を買ってバスの中で食事をした。フェリー出発時刻には相当時間があるのでバスで南下。かなり南下してお隣の岩手県洋野町の大沢温泉の湯につかり疲れを癒す。八戸港への途中、有名な「うみねこ繁殖地の燕島」に立ち寄りウミネコ視察。フェリーターミナルで田原さんに別れを告げフェリーに乗った。和室の部屋に着くなり各々酒とつまみを出し宴会、毎年？今年も山頂まで登ることができなかったので、来年も再挑戦という話で盛り上がった。

5月3日朝、苫小牧西港着、別れを惜しみながら解散した。スタッフ及び関係役員様、スキーの滑降は残念でしたが楽しいツアーありがとうございました。

登攀研修会 6/15-16 日高登山研修所・日高ロック

- 登攀研修会開催期日及び会場 → 令和元年6月15日(土)～16日(日) 日高登山研修所及び日高ロック、宿泊日高登山研修所
- 研修内容 → ①登攀用具の知識、ロープワーク ②トップロープによる登攀・模擬リード登攀 ③懸垂下降技術 ④制動確保技術 ⑤自己脱出
- 参加者 → 12名+スタッフ7名(明田通世 滝澤大徳 小原 隆 村中順一 本宮敬士 田中清子)
- 1日目 10:00 研修所集合 10:30-12:00 登攀用具の知識 13:00-16:00 トップロープによる登攀・模擬リード登攀 18:00-20:00 夕食及び実情交流会
- 2日目 5:30 起床・掃除 → 6:30 朝食 → 7:00-12:00 体育館で実技講習(ロープワーク、リードクライマーへの制動確保技術、リードクライマー確保時からの自己脱出)



一日目は屋内講習



二日目は実際の岩場で登攀訓練

受講者感想

登攀研修会に参加して

個人会員 足利 博美

令和元年6月に個人会員になり、さっそく登攀研修会に参加させていただきありがとうございました。

10年前にBC→夏山も登るようになり、数年前から沢やクライミング(ほとんどインドア)も年に数回加わるようになりました。この2-3年ガイドツアーによるBC・沢では、個人装備が徐々に増え、ロープワークの研修に参加したことはあっても、ロープやスリングを十分に使える知識・スキルがないことに不安を覚えたままでした。活動の場を深めたい気持ちが強まるなか、ロープワークやクライミング技術を自分のものにしたく、今回いい機会に恵まれたと思います。

《学んだこと》

【ロープワーク】「1.Tie 形をつくり Dress 形を整え Set しっかりしめる」

○ロープは繊細、ぞんざいに扱わない！(ねじれ・ゆがみ・末端処理・カラビナの使い方で摩擦や強度に影響し命に関わる) ○名前は共通の名前で呼ぶ(ex: マスト→クローブヒッチ) ○予習は必要！(うろ覚えのままでも来てもすぐに手さばき出来ず、時間ばかりとる。復習の場にするくらいが望ましい)

【上滝ロックで登攀技術】

○危険がいっぱい！事故を起こさない・遭わない(クライマーとビレイヤーお互いの集中力と思いやり、ロープさばき、スリングの選択、落石への注意、声かけ、確実なセルフと足場の確保)

○何でも考える ○とにかく外岩は楽しい!!!

【登攀用具の知識】

○ヘルメットひとつとっても、用途に合った物を選択する必要あり(ex: クライミングにスキーヘルメットを使ってはならない！ヘルメット本体や顎紐に至るまでその用途に合わせた強度で作ってある) ○正しい物を選択しても、使い方が間違っていれば命に関わる(ex: ハーネスのつける位置や締め方) ○見極めて買う

【制動確保と自己脱出】

○システムはシンプルに ○ロープワークは宝!!

講師からの学びは大きく、2日間みっちり頭を使った研修でした。また登攀に熟知した先輩方の参加も多く、先輩方の交流から得られるものも多く、楽しい研修となりました。皆さまご指導ご鞭撻ありがとうございました。つまみ食いのクライミングを腹五分くらいには続けていけたらと思います。

研修というものは数年に1回参加すればいいというものでなく、毎年毎年繰り返し参加し、自分のものとして持ち帰ることが大切だとわかりました。道岳連には色々な研修や登山交流会があり、今後も参加が楽しみです。

パワフルレディース登山研修会 7/27-28 楽古岳

令和元年のパワフルレディース登山研修会は、南日高「楽古岳」にて、7月27日～28日に会員11名(個人会員3名含む)、スタッフ3名の合計14名で開催する。今回は、沢登りと夏道コースの2コースに分かれ、沢コースはコイボクシュメナシュンベツ川から、夏道はメナシュンベツ川コースから登り、頂上で合流する行程で行う。

27日(土)は、13時に浦河町の楽古山荘集合、集合時間と同時に小雨が降りだし、予定していたロープワークと懸垂下降の講習会は、山荘の2階で行う。初めてカラビナやロープに触れたり、ハー

ネスを着ける参加者もあり、用具の説明や基礎技術を学習し、ロープの結び方や懸垂下降の練習も行う。

28日(日)は、天気も回復し青空の中、沢コース4名(都合で2名が不参加)と夏道コース8名が2コースに分かれて登山開始、頂上で合流し、夏道コースを全員で無事に下山。15時に閉講式後解散する。

【スタッフ】 加藤 陽子 朝日田久美子 下山シゲ子

《 沢コース報告 》 文責：加藤 陽子

1日目は、天気が悪く、屋外で行う予定であったロープワークを楽古山荘内で行う。ハーネスの着け方からロープの結び方、懸垂下降の練習を行う。2日目はいよいよ本番。きれいな沢、特に100m以上続く滑滝の素晴らしい楽古岳コイボクシュメナシュンベツ川。ワクワクが止らない。

今回パワフルレディースの山行として、4名でこのコースを登る。天気が心配されたが、晴天の中での山行となる。尾根コースより1時間半早く出発する。途中地図では読みにくい沢が2ヶ所あり、皆で地図とGPSで確認しながら慎重に進む。足並みも揃い、沢クライミングをそれぞれ楽しみながら順調に進んでいく。途中以前と沢の様子が変わり伏流水になる箇所があり、滑滝が見られないのではないかと不安を感じていたが、念願の滑滝が出現したときは、皆で歓声の声を上げ最高の景色を楽しんだ。稜線に出ると、先に山頂についていた尾根コースのメンバーの歓声に迎えられ、山頂ではアーチのお出迎えを受け、喜び一杯の山行となった。

メンバー全員無事下山し、登頂の喜びを分かち合い終了となった。

《 夏道尾根コース報告 》 文責：下山シゲ子

沢コース4名が5時に出発後、尾根コース8名は山荘の清掃後6時に出発する。前半は沢沿いの林道跡や河原を歩く。6回程渡渉する箇所があるが、水量は少なく飛び石伝いに渡れる。1時間ほどで「楽古岳登山道入口」の標識のある尾根取付きに着く。ここから先は日高特有の急な尾根の直登になる。前半の600mまでの急登は、ジグザグと切って登って行くが、その後は直登となる。気温が上昇してきているのもあって、汗が噴き出す。疲労を最小限にと30分~40分毎に水分補給や休憩を取りながら、ゆっくり高度を上げていく。1100m付近から、肩から頂上への稜線、その先に楽古岳頂上が見え、あと少しと励まし合いながら進む。1317mの肩に出ると周囲の山々が望まれ、頂上まで細い稜線が続いている。ここでやっと沢チームと無線の交信ができた。沢チームも稜線に近づいていて、みんな無事で元気なことを確認できた。



楽古岳山頂

頂上までは緩やかな勾配で、ハイマツや灌木を縫っていくと30分程で頂上に着く。その後沢コースの人達が稜線に上がったのが見え、お互いに歓声を上げ合い、沢チームも間もなく頂上に辿り着く。無事にメンバー全員が山頂で合流できたことを喜び合い、集合写真撮影後、夏道を全員で下山する。

受講者感想 パワフルレディース「楽古岳」沢コース 個人会員 柚澤

今回初めて「パワフルレディース」に参加しました。決してパワフルとは言えませんが、これからそうなりたいという思いで、スキルアップのため参加を決めました。以下、私が参加した沢コー

スの感想です。

「楽古岳」何とも可愛らしい名のその山は、急峻な日高山脈の1つにあった。夏道コースと沢コース、どちらに参加しようか散々迷って沢コースに決めた。沢の経験値を積みたいことと、暑い夏はやっぱり沢を行きたかった。

楽古山荘に泊まり、二日目の朝。まだ薄暗い中、各々静かに身支度をする。早朝なのに気温が高く蒸し暑い。山には朝靄がかかっている。朝靄の出る日はよく晴れる。今日は暑くなりそうだ。先に沢チームが、何だかんだで最終的に4名で出発。少し藪の掛かる林道を進み、程なく林道が無くなった辺りで入渓。河原を歩いていくと、大きい流木や岩がゴロゴロ。数年前の台風のものらしい。この先もしばらく河原を歩くが、崩れた跡があちこちに。ごく最近の所もあり、ルート経験のあるCL/SL共に口をそろえて「沢相が全然違う」との事。小さな滝を幾つか越えつつも、あまり高度を上げないまま地形図の水線の終点近くまで順調に辿り着く。ここまでも所々に枝沢はあったが、ルートファインディングには時間が掛からずに来れた。水線終点付近の地形は、細かい沢が入り組んでおり1/25,000地形図では微妙な違いで、コンパスを切っても判断し難い。一度登りかかったルートも「記憶と違いすぎる」と一度戻り、再びルートファインディング。コンパス+GPSは片方だけでなく両方を確認することが大切だと実感。



滝の直登

予定していたルートを見つけ、今回の一番のお楽しみシャワークライミング！気温が高かったので、丁度良い冷たさ。キャーキャー言いながら楽しむ。3点支持を意識しつつも、岩が滑るし次の手はどこ？？必死になって上がったけれど、今の登り方はよくないなあ・・・など、技術と経験不足を痛感。落石しない歩き方と、後続の時は落下方向では待たない。危険の予測は机上で学ぶよりも身をもっ

て学び取った事は断然意識の仕方が違う。

長い沢登りが続き、水が無くなった頃に頂上の稜線が見えたが、まだもう少し距離があるな・・・そして、一気に急登になる。もう足だけでは上がれず、ハイマツの木や草や掴めるものは何でも掴む。なかなか近づかない稜線に少し嫌気がさした頃、ふいに後を振り返ると尖った日高山脈の山並みがキレイに見えた。ワー！と思わず声に出る美しさ。景色を励みに、やっと稜線に出る。

無線の交信では夏道チームはすでに頂上に着いているとの事。もう帰っちゃったかな？と思ってしていると頂上から声がする「お疲れー！」「おめでとー！」最後はアーチを作ってハイタッチ。24時間マラソン並みの感動のゴール(笑)

下山時も急な下りで大変でしたが、全員無事に下山。みんな一緒に降りられて何よりでした。

今回の参加にあたっては、不安も大きかったのですが、登頂できた事で少しの自信と、取り組むべき課題が見つかり、大変有意義な経験となりました。皆さん大変お疲れ様でした。

夏山講習会 Part1 6/8-9 トー/シケヌブリ・徳舜警山・ホロホロ山

日 時 令和元年6月8日(土)～9日(日) 宿泊場所 仲洞爺キャンプ場
参加者 個人会員11名 スタッフ4名 計15名

【行動概要】

6月8日(土) 晴れ

9:30 洞爺湖温泉町文化センター集合 開会式、登山準備 ⇒ 10:00 遊覧船で中島へ移動 ⇒ 12:30 トーノシケヌプリ山頂 ⇒ 14:30 遊覧船 仲洞爺キャンプ場へ移動 (テント設営、実施研修)
17:30 夕食・交流会 ⇒ 21:30 就寝

6月9日(日) 曇り

5:00 起床(食事、テント片付け ⇒ 6:40 移動 ⇒ 7:30 徳舜瞥山登山口発 ⇒ 9:50 徳舜瞥山 ⇒ 10:50 ホロホロ山 ⇒ 11:40-12:10 徳舜瞥山へ戻り ⇒ 14:00 登山口帰着

【行動記録】

8日 参加者はスタッフを含めて15人。札幌圏域に加えて、別海、枝幸、岩見沢等からも参加した。皆なじみの人達で、道岳連個人会員・会をなしている。今回の行動目標は洞爺湖・中島に上陸し、大島の最高峰を極めることだ。そして、湖畔にキャンプ、テントを張る。翌日は徳舜瞥山・ホロホロ山と前日と合せて三座を踏破する。

山に登るために、先ずは船に乗った。10:00 就航の遊覧船で、ヨーロッパの古城を模した様なデザインで、接岸したら直ぐに折り返し出港する。ゆりかもめ?が飛び交い付いてくる。乗船料1,420円、往き航路20分。中島は「大島」と称され、ピークが3峰連なっている為に、遠方からは大小三座の塊に見える。周囲は10kmあるだろうか? 三角形に目立つ標高455mが最高峰だ。トーノシケヌプリ、これに登る。

島に上陸し、奥地の立入に森林博物館で入山届けを要求される。その後順路に従い、外界と区分する木柵のゲート内に立ち入る。入口から先、島をほぼ半周する散策路が整備されている。カラマツ、トウヒ、エゾマツ、トドマツ、ホオノキ、オオカメノキ、サンショウの大木が目につく。フッキソウの群落、マムシ草、ミミコウモリ、艶やかなウルシ、ウコンウツギ。ゲート入口から歩程30分登り上がったコル地形で、散策路を外れ北西の斜面に分け入る。

30度を超える斜度に、人跡を探りながら高度差250mを稼ぐ。蛇行しながらやっとの思いで這い上がると、こが山頂だ。幅2m足らずの稜線に三角点があった。455m、乾いた粘土状の台地でワラビ



トーノシケヌプリ山頂



食堂テントで懇親会

が繁茂していた。四方の展望は木々の葉が邪魔をして、湖畔の一部が望めた。天候は晴れて、天空はすこぶる良い。帰路は転げ落ちるように、降った。森林博物館、遊覧船桟橋14:00着。とどめ置かれた白鳥が島にきた観光客の相手をしている。観光地で藪漕ぎ路の野趣を楽しむ皆さんにお勧めルートだ。

本土に上陸後、移動して湖畔の対岸側、仲洞爺キャンプ場にテントを張った。スタッフのリーダーが既に、食堂の天幕を設営しているので安心、ありがたい。各人、居住地を決め、ディナーパーティの準備、方や「来夢人(キムト)の家」の湯に入浴。夕日を愛でつつ焼き肉パーティ。差し入れ海産物、毛ガニ、ツブ、ホッケ、旨いものを食った。清酒「一生青春」もう一本「銘柄を失念」、芋焼

酎、山梨のワイン、三笠のワイン、もちろんビール、飲み食いし、22時には気を失い寝た。第一日は瞬く間に終了、チーフリーダーの尽力で快適な時間だった。

9日 曇り 5時起床、皆さん早起きだ。チーフリーダーの作業で6時に朝食終了。キャンプ地を撤収、6時30分過ぎには徳舜瞥山へ移動した。数日前熊が出たそう。徳舜瞥入山7:30、予定より1時間先行、9:50 徳舜山頂(1309m)、山は霧の中、看板表示が無ければ、定山溪八剣山としても同じだ。10:15 ホロホロ山へ移動、10:50 山頂(1322m)。11:40 再び徳舜瞥山。三座登頂記念撮影。行き会った人達は、白老側から往復のお姉さん達、徳舜往復のトレイルランニングのお兄さん、長沼町町民登山会30人程の団体。アズマギク、サンカヨウ、ハクサンチドリ、シラネアオイ等が霧に濡れていた。数人はカップ麺、インスタント袋麺を調理して食い、それが満ち足りた顔に見えた。ほぼ14:00 登山口、皆さんは安全に下山、解散の挨拶で終了した。

それぞれ、大滝区共同浴場「ふるさとの湯」(無料、石鹸なし)に入浴して帰路についた。

【参加スタッフ】 秋元副会長 横山 温 橋本 一郎 横山 泰子

(報告 橋本 一郎)

受講者感想

感想文

札幌市 個人会員

澤村 一角

この度の、洞爺湖中島にある最高峰トノシケヌプリは、私が函館出身なもので、帰省時よく車窓から眺めていたのが30年も昔で、今はルートが違うため、とても懐かしい登る事も初めてのお山です。

6/8 集合場所の駐車場で挨拶後、湖畔の栈橋へ徒歩移動し遊覧船(約20分)での中島着岸。私達一行の他外国観光客がほとんどで、この方々が居ることで観光地経済が成り立っているのかと感じました。山行スタートは、洞爺湖森林博物館脇(10:35-90m)から整備された遊歩道が続き、自然林と大木の植林帯の間をのんびりと鳥の声に癒やされながら進み、途中(200m)遊歩道とお別れし、藪漕ぎも所々ある直登気味にピークを目指して、二等三角点の山頂(12:00-455m)に出ました。そこは細長い帯状の地形で、よく伸びた蕨が沢山生え雑木の隙間から所どころ湖畔がのぞき見え、素晴らしい眺望とは行きませんが、その後の昼食と記念写真撮影にも一行は場所取りに一生懸命で賑やかに楽しい時間でした。

その後下山開始(12:50)急斜面に気をつけ、遊歩道に出れば又々のんびり歩きで登山口(14:00)到着です。帰りの遊覧船待ちに一休みし、乗船後も外国人観光客に圧倒され、初日の山行は全員無事に駐車場で点呼を取り、キャンプ場へ移動となりました。

同日のテント場「仲洞爺キャンプ場」の敷地内に天然温泉施設があり嬉しい限りでした。早速各自がテント設営、慣れたメンバーは位置取りも張り方も素早く、自分が持ち込んだテントは開けるのが二度目で、うろ覚えでの作業がやはり他のメンバーの手を借り張り直しとなり、その要点を指摘され大変助かりました。又、都合でここから参加の二人が加わりその後、夕食の準備に女性メンバーが特に頑張ってくれ、5時半の夕食開始まで自分は温泉を頂き、その後のビールでの乾杯が何倍にも美味しく感じました。

事前に設営して頂いた大型テントでのバーベキューは、各種焼き肉、焼き野菜にホッケや青ツブの海産物焼きに併せて、毛ガニまで出てきました。沢山のビールにワイン、日本酒と勧められ参加メンバーの自己紹介の他、沢山の貴重な体験談や今後の羨ましい計画等々、話が弾みすぎて自分が何時にテントに潜り込んだのか全く不明でお恥ずかしい。

6/9 5時起床後、これまた皆さんに準備頂いての温かい卵かけごはん、味噌汁、お漬物とコーヒー付き、又、移動食用ゆで卵、バナナまでも頂き、テント撤収後キャンプ場を後にし、徳舜瞥山キャンプ場へ移動、ここでメンバー相乗りして登山口駐車場へ。この配慮が後の他登山者の駐車スペース確保に繋がったのは、後で分かることになった。

登山口(5合目)で記念写真撮影後山行スタート(7:30-690m)、徳舜瞥山到着(9:43-1309m) 眺望の期待は外れてしまったが、時折双方の山頂部分や雲の隙間からの登り口方面を見ることができた。

続いてホロホロ山目指して徳舜瞥山出発(10:10)、ホロホロ山到着(10:40-1322m)、休憩後ホロホロ山出発(11:05)、この稜線の登り返しに汗と、空腹のグーグー合図音が鳴りっぱなし。徳舜瞥山再着(11:35)、山頂での昼食と休憩後、下山開始(12:15)。途中、花の満開には未だ早いのか、ウコンウツギ、ハクサンチドリ、シラネアオイ(これは分かった)、ミヤマオダマキ、ミヤマアズマギク、ミヤマキンバイと、ホロホロ山側に多く見られたと思う。しかし、これらの花の名前が分からず、先輩メンバーにご教示頂き、ただただこれも勉強が必要と反省。そして、双方の山頂での記念写真撮影時は、いつもメンバーがわいわいがやがやで楽しいかぎりだ。



徳舜瞥山からホロホロ山への道

登山口到着(13:45) 本日の天候は65点と思うが、40名前後の団体あり、カップルあり、午後からデートだというトレイルラン青年等々、この日は山好き達が一杯登っていて、山は本当に楽しい。この度は、自分にテント泊登山として初日二日目両日にテント一式(マット以外)のパッキングザックで臨んでみた。さすがに重かったが膝の痛みも付かず、実際の山行の自信になったように思うし、自分が大量の汗を流したのも、前日の旨い酒のせいには決まっているが、時折涼しい風に出会えた心地よい山行で、そして自分のことを「いっかくさん」とあだ名っぽく呼んで頂き、ますます親しみの湧くこの会の山行となった。

この度の夏山講習会では、参考資料の作成に遊覧船の手配、事前のテント泊キャンプ場が急遽変更になり、それに伴って改めて場所確保と参加者への対応や、食事飲物等の準備又、事前の大型テントの設営等々、沢山の労力を費やされた主催者の普及委員会の方々には大変感謝致します。

又、いつも参加されている先輩メンバーには、楽しく優しく接して頂き感謝です。自分ももっとこの会で積極的に技術等を会得し学習し、今後道岳連行事等でお手伝いが出来る側にちょっとでもなれる様頑張りますので、これからもどうぞ宜しくお願い致します。

夏山フチ登山会

6/30

羊蹄山

【行動記録】 2019年6月30日(土) 羊蹄山 京極コース

登山口発 5:00 ⇒ 三合目 6:20 ⇒ 五合目 7:35 ⇒ 七合目 9:00 ⇒ 頂上着 10:10-10:50
頂上発 11:30 ⇒ 八合目、四合目、二合目で休憩 ⇒ 登山口着 15:00

今回の羊蹄山プチ登山会には、参加者3名とスタッフ4名の総勢7名(名犬一頭)で、京極コースの登山口にある山小屋で前泊者と合流し、開会式後5時に出発する。先ほどまで雲に隠れていた山頂部が見えてきて、天気は良くなる気配。

ここ京極コースは、全体的に登山道がほぼ直登気味なので、体力のいるコース。合目ごとに休憩を取りながらゆっくり登って行くと大分下界が開けてき



羊蹄山頂上

ました。途中、大きな白樺の倒木が何カ所かあって、乗り越えるのに力が入る。八合目を過ぎた頃からガレ場が出てきてロースピードに。ここから参加者のペースに合わせて、それぞれ頂上に向かうことにしました。私はここで太ももがつってしまい、テーピングで応急処置をしてやっと皆が待つ頂上に40分遅れて着く。(普段の運動不足がここで出て反省)。

頂上は無風で視界も良く、下界や遙か遠くの景色がきれいに見えて高度感も抜群！多くの登山者で賑わっていました。深い谷底や噴火口内にはまだ残雪があり、天然の冷風が疲れた体をいやしてくれた。頂上でのんびり弁当を食べ11時30分下山開始し、登山口に着く頃に雨が降り出してきたが、あまり濡れずに全員無事到着。終了式後再会を誓って解散となりました。

【参加スタッフ】 横山 温 細木 輝雄 橋本 一郎 横山 泰子 (報告 細木 輝雄)

受講者感想 夏山プチ講習会羊蹄山登山に参加して 苫小牧山楽会 珍名 秀明

定年退職後、現在、苫小牧の中学校で再雇用され働いております。これからは、趣味に生きようと昨年9月に苫小牧の山楽会という登山サークルに入りました。登山については、最初の赴任地が日高町で、先輩教師に連れられて北日高の山に登ったことで、その魅力に取りつかれました。それ以来30代までは、部活の大会の合間をぬって年数回、山に行っていました。しかしその後、しばらく山から遠ざかっておりました。今年になり、山行回数を増やそうと、所属する会以外も何か一般募集の登山がないかとネットで探していたところ、当講習会の案内を見つけ、すぐ応募しました。

登山前日、6月28日(金)仕事が終わってすぐ京極山荘に向かいました。暗くなる中迷っていると、スタッフの方が車の窓から「珍名さんですか」と声をかけられ、なんとか山荘にたどり着くことができました。山荘では、明日一緒に登る犬の出迎えを受けびっくりしましたが、酒とお好み焼きをいただきながらスタッフさんの貴重なお話を聞いて、楽しい時間を過ごしました。

翌6月29日(土)5時に予定通り登山開始、天気は曇りでしたが、登山道入口の駐車場からも山頂が見えました。(・・・ラッキー・・・)畑の横の道から登山口のある標識のある林道に入り、少しずつ急登になってきました。先頭に行くリーダーの横山さんの足の運び方を参考にしながら登りましたが、なかなか同じようにはいかず少し遅れました。途中太ももに木の太い枝が直撃し、足に違和感を覚えながらもガレ場を過ぎ稜線に出て、咲き始めたチングルマを見ながらやっと山頂に着くことができました。山頂付近は他のコースからの登山者が列をなして進む賑わいで、京極山荘も登山口駐車場もよく見えました。昼食後、また長くて急な登山道を下り始めました。今度は、右足の親指の爪が痛み出しました。以前にもありましたが、靴の紐をきつく結んだつもりなのですが、また痛みが出てきました。そのため、つま先から地面につけず、かかとから着地し、滑ってしまうことが多くなりました。足の痛みをかかえ悪戦苦闘の下りでしたが、皆さんから遅れながらも、予定通り15:00に登山口駐車場に着くことができました。閉講式を行い解散になりましたが、帰りに寄った京極温泉では数名のスタッフの方とお会いしました。やはり登山の後は温泉ですね。露天風呂から羊蹄を眺めながら、多少の疲れも回復でき、18:00には苫小牧に無事帰ってきました。



を覚えながらもガレ場を過ぎ稜線に出て、咲き始めたチングルマを見ながらやっと山頂に着くことができました。山頂付近は他のコースからの登山者が列をなして進む賑わいで、京極山荘も登山口駐車場もよく見えました。昼食後、また長くて急な登山道を下り始めました。今度は、右足の親指の爪が痛み出しました。以前にもありましたが、靴の紐をきつく結んだつもりなのですが、また痛みが出てきました。そのため、つま先から地面につけず、かかとから着地し、滑ってしまうことが多くなりました。足の痛みをかかえ悪戦苦闘の下りでしたが、皆さんから遅れながらも、予定通り15:00に登山口駐車場に着くことができました。閉講式を行い解散になりましたが、帰りに寄った京極温泉では数名のスタッフの方とお会いしました。やはり登山の後は温泉ですね。露天風呂から羊蹄を眺めながら、多少の疲れも回復でき、18:00には苫小牧に無事帰ってきました。

今回の講習会に参加して感じたことは3つあります。

1つ目は、長い歩行時間の山行をもっと経験しなければいけないこと。今回は、コース的に急なことや、太ももや足の親指の爪の痛みなどがあったといえ、下りの終わりの方ではこれまでに経験

したことのないような足の疲れを感じました。普段のジムでの筋トレ以外にも歩行時間の長い登山にたくさん挑戦しなければならないことを感じました。

2つ目は、登山靴の調整をしっかりとしておくことです。やはり登山は歩くことであり、そのため登山靴が合っているかどうかがとても大切になってきます。それが原因の爪の痛みだと思います。短時間だとごまかせることも、歩行時間が長くなると通用しないことがわかりました。(その後、すぐ登山靴を新調しました)

3つ目は、今回、初めて犬と一緒に登山し、とても楽しませてもらったことです。最近、地元樽前山でも犬同伴の登山者と遭遇することが増えてきました。それについては賛否両論あり、犬同伴禁止の山もあるそうです。しかしドッグランどろではない、あの生き生きとした犬本来の姿を見て、成年の私も(余り関係ありませんが・・)とてもうれしく思いました。パーティーから離れないようにこちらを見ながら何度も行きつ戻りつ、時にその登りや下りのスピードや運動能力に感心しながらの登山でした。そして「ああ、私もいつか自分の犬と登山がしてみたい」(・・妻が犬を飼うことを許してくれませんが)という願望も持つようになりました。

最後に、羊蹄山登山はこれで2回目になりますが、経験豊かなスタッフの皆さんと一緒に登れるだけで私にはすべてが良い経験になりました。またこのような講習会に参加したいと思います。スタッフの皆様には本当に感謝申し上げます。ありがとうございました。

夏山講習会 Part2 7/13-15 トムラウシ山

日 時 令和元年7月13日(土)～15日(月) 宿泊場所 山の交流館とむら(新得町屈足)

参加者 一般2名 個人会員12名 山岳会4名 スタッフ4名 合計22名

【行動概要】

- 7月13日(土) 14:30 山の交流館とむら集合 開講式、装備点検、パッキング講習、ビデオにてコース確認、夕食、懇親会 ⇒ 21:00 就寝
- 7月14日(日) 3:00 起床 ⇒ 短縮コース登山口移動 ⇒ 5:50 登山口発 ⇒ 9:25 コマドリ沢分岐 ⇒ 10:55 前トム平 ⇒ 13:50 南沼キャンプ指定地に全員到着 テント泊
- 7月15日(月) 4:00 起床 ⇒ 6:00 トムラウシ山山頂へ出発 ⇒ 6:30-50 トムラウシ山 ⇒ 8:20 テント撤収、キャンプ指定地発 ⇒ 10:05 前トム平 ⇒ 10:55 コマドリ沢 ⇒ 12:50 カマイ天上 ⇒ 15:00 全員 短縮登山口着 ⇒ 15:50 東大雪荘閉講式 解散

【行動記録】

13日、集合場所とむら館には、風邪で一人不参加を除き22名が集まった。天気予報を気にしながら北海道各地からと、今回は京都からも一人参加された。予定通り明日からの登山に備えて全員で装備確認、防水対策パッキング、荷物の計量を済ませてビデオにてコースの概要を見てもらう。

とむら館のバーベキュー設備でシカ肉の網焼き、差し入れの海鮮焼きを頂き、アルコールが回ったところで自己



トムラウシ南沼野営指定地で

紹介と近況報告で親睦を深めた。また、近所の子どもたちも参加して交流を楽しんだ。20時には後片付けをして各自の部屋に消えていった。

14日、宿の外は湿度一杯でヤブ蚊が寄ってくる。各自の車で登山口へ向かう。登山口出発から霧雨混じりではあるが、天候は回復傾向にあると判断し登山を開始する。参加者の半数がトムラウシ経験者であり、個人会員も講習会の常連が多く、気心、レベル等チームとして問題はない。今日は終日小雨混じりの行動で終了する。コマドリ沢に下る途中で道警山岳パトロール中の3人とすれ違う。熊情報、登山道などを聞く。幸いにも風が無いのでコマドリ沢、前トム平、目的地の南沼キャンプ指定地に全員到着する。各自テントを張り明日に備える。

15日、テントから落ちる滴も3時頃までで、昨日決めたトムラウシ山山頂へ出発する。6時雲は無く6時30分には山頂に到着。雲海から顔を出す大雪の山を楽しみ下山する。8時20分南沼キャンプ指定地から下山開始。今日は雨具の世話にならず15時に全員登山口到着。東大雪荘前で閉講式を行い、普及委員会恒例のいつもの1丁締めで終了する。参加者それぞれに思い出深い講習会になったと思います。

【参加スタッフ】 横山 温 細木 輝雄 橋本 一郎 横山 泰子

受講者感想 夏山講習会 Part II に参加して 個人会員 曾根

私が今回の講習会に参加したきっかけは、トムラウシ山は、25年前から登りたいと思っていた山ですが、2009年に8名の死亡遭難事故が起きたことから、登りたいけれど個人で登るのは不安があり、ずっと躊躇していた山でした。

今年の5月に小・中学校同窓会で同級生にトムラウシ山は“必ず一度は登りたい山”と話したところ、他の同級生の兄が企画している講習会があることを聞き、早速、北海道山岳連盟の個人会員となり講習会に申込みをしました。

実際に参加してみて、一日目の装備点検から以下のとおりかなり得るものがありました。

1日目 *****

《装備点検》

◎持ち物・軽量化・水・・・主な持ち物の事前連絡があり、あらかじめそれを目やすに用意ができました。食事の軽量化のフリーズドライも役に立ちました(古い人間なので昔の感覚でパックご飯を持っていこうと思っていました)。水は携帯浄水器で補充できるということで、20減らすことができ、感謝・感激！

◎ザックの重量・・・私は一週間、実際に荷物を詰めてみて重すぎるため、軽くするにはどうしたらよいか日々荷物と格闘していましたが、皆さんの重量が大体15kgで私と同じくらいの重さだったので、ある意味でほっとしました。※中には桁外れの方もいましたが・・・

◎雨対策・・・着替えについてはビニール袋に包むなど対策はしていましたが、寝袋等全然気にかけていませんでした。ザック内をビニールそのもので覆うなどを教えてもらったおかげで、今回の登山ではザックは完全に濡れてしまいましたが、中の物に被害は及びませんでした。

《夕食》

皆さんの話も聞け、有意義なひと時を過ごせました。鹿肉・タコ・カレイ等“山の幸・海の幸”を食べて“元気もりもり” さあ明日に向かってGOです。雨が降らないよう祈りつつ その日は就寝。

2日目 *****

《朝食》

3時起床でみそ汁をいただき、おにぎり弁当をもらい登山口へ。途中でおにぎり1個を食べ、テント設営後残りを食べましたが元気が出ました。(やはり日本人は米ですね。朝早く用意していただき感謝！)

《登山開始》

最初から雨が降る悪天候の中を進む初めての経験となりました。(いつもは最初からあきらめるか途中で引き返しています)途中でリタイアする人やパーティがあり、我々も中止になるのではと秘かに期待しつつ必死に後をついて行っていました。途中 POLICE3 人とすれ違い、状況を詳しく聞いていたので雰囲気的に引き返すのかと思いましたが、その後も前へ黙々と歩を進めたので、選択肢は頂上目指すのみと気を引き締め、(内心は不安のまま)後に付いていくしかないとあきらめました。(“夢に向かってGO”と“トホホの気持ち”と交錯しながら)

登山中のペースは、いつもより速いペースで休憩までの歩行時間も長めでしたが、休憩ごとにザックを降ろし少し長めの休憩を取っていたことから、なんとか付いて行くことができました。

《テント設営》

南沼テント場につきホッと一息つく間もなくテント設営、今回新しい軽量のテントと 30 年来のテントどちらにするか迷いましたが、少し重い使い慣れたテントを選択しました。結果は、張り綱している際、手が小刻みに震えだしてきていましたので、考えなくても素早く設営でき使い慣れたテントで正解でした。テントに入ったら温かく感じ、震えも止りホッとしました。

ヒートテックの下着・寝袋カバーなどで寒さは感じられず過ごすことができました。(30 年前の経験から寒さ対策は大丈夫でした)

3 日目 *****

《頂上へ》

晴れてはいませんが、雨もやみ雲海上に周りの山も見え最高のひと時でした。(念願の山頂、感無量！)

《下山》

下山開始前にリーダーから本日が、遭難事故の命日ということを告げられ全員で黙祷をしました。改めて過去の犠牲を無駄にしないよう十分な準備・装備で、自然に合わせた登山をしていかなければと痛感しました。この悪天候で 22 人全員怪我も無く、無事下山。(素晴らしい！！)

《温泉へ》

登山後の温泉はいつも格別ですね。露天風呂最高でした。

《次回登山への布石》

順調に 20 時 30 分帰宅。帰宅後、後片付け洗濯等(これが大事、次に山へ行く時、妻に快く送り出してもらうためにも)

最後に、今回参加させていただきいろいろな面でステップアップできました。自分ひとりでは不可能なことを可能に導いていただいたリーダーの横山様とスタッフの皆様 本当にありがとうございました。



宿舎で荷物の計量及び装備チェック



コマドリ沢雪溪を登る

第 74 回国民体育大会 SC 競技北海道ブロック予選会 兼 道体育大会 SC 競技 8/3-4 グラビティサーチ札幌・美唄市体育センター

第 74 回国民体育大会スポーツクライミング北海道予選会兼北海道体育大会スポーツクライミング競技は、8月3日～4日の両日、ボルダリング競技が札幌市グラビティリサーチ札幌、リード競技が美唄市体育センターで、北海道山岳連盟の主管で開催された。国体競技に合わせた4つのカテゴリーに60名の選手が出場した。国体派遣監督・選手は以下のとおりで、9月28日～10月8日まで開催される「いきいき茨城ゆめ国体2019」スポーツクライミング競技(10/4-6 銚田市)に出場する。

種 別		氏 名	居住地	公認指導者・ 選手登録番号	所 属	予選順位
成年男子	監 督	石 井 昭 彦	北海道 札幌市	0049116	旭川山岳会	
	選手1	杉 本 怜	東京都・ふ るさと選手	19792868	マイナビ	予選 免除
	選手2	武 者 知 希	北海道 江別市	70927903	北翔大学	1 位
成年女子	監 督	長 井 洋 子	北海道 札幌市	0117420	(株)明治	
	選手1	北 谷 未 紗	北海道 札幌市	12910578	(株)秀岳荘	1 位
	選手2	東 さくら	北海道 札幌市	92586797	札幌青葉鍼灸柔整 専門学校	1 位 タイ
少年男子	監 督	大 橋 朗	北海道 ニセコ町	0403512	ニセコ町役場	
	選手1	坂 本 大 河	北海道 札幌市	18129970	市立札幌平岸 高等学校	1 位
	選手2	竹 内 悠 真	北海道 札幌市	32594960	立命館慶祥 高等学校	1 位 タイ
少年女子	監 督	一 安 敏 文	北海道 札幌市	0363428	北海道 フリークライミング協会	
	選手1	吉 田 ゆ な	北海道 小樽市	62913008	小樽市立 青園中学校	1 位
	選手2	上原子 音羽	北海道 札幌市	61560929	札幌市立 新川中学校	2 位



美瑛富士携帯トイレブース点検パトロール 7/28 美瑛富士

美瑛富士トイレ管理連絡会を構成する道内山岳8団体の輪番で実施する点検パトロールは今年で5年目を迎え、北海道山岳連盟は7月28日(日)に6名が参加して実施した。小屋備え付け携帯トイレの補給、ブース内の清掃とあわせ、周辺の汚物やティッシュを回収しているが、今回はトイレ道の先などにもこれらは見受けられず、回収物はなかった。同日実施された美瑛町役場の避難小屋補修メンバーと行動を共にし、内部やドア、窓周辺の修繕補助や廃材の担ぎ降ろしもサポートした。

美瑛富士の携帯トイレブースはテントタイプで、過去3年とも強風で倒壊していたが、今年度環境省により固定式のブース設置が決定し、8月初旬に建設、同26日から供用を開始している。

なお、固定式携帯トイレブース新設に伴い、環境省、美瑛町、美瑛富士トイレ管理連絡会の三者による、ブース維持管理に関わる協定が締結され、次年度以降も「管理連絡会」構成団体による施設の点検及び清掃、周辺の清掃を目的としたパトロールは引き続き行われる。

(報告 自然保護委員会 内藤 美佐雄)

親子登山教室・親子スポーツクライミング教室 8/7-8 三角山・北海きたえーる

8月7日(水) 「親子登山教室」札幌市三角山→大倉山→奥三角山→小沢入口

8月8日(木) 「親子スポーツクライミング教室」北海道立総合体育センター「北海きたえーる」
今年のジュニア委員会事業は、1日日程の「登山」と「スポーツクライミング教室」を実施しました。

8月7日の「親子登山教室」には、児童生徒7名、保護者5名、スタッフ4名で実施。晴天のなか、午前9時30分に山の手登山口を出発、登り始めて30分したところで、登山道の樹木にセミのつがいを見発見、みんなで真夏の虫の姿を確認して1時間で三角山に登頂しました。

そのあとは縦走登山に挑戦。11時過ぎには「大倉山ジャンプ競技場」山頂展望台で「ソフトクリーム」で暑さと疲れを癒やし、札幌市内の街並みを眺めました。そして、私有地の「奥三角山」へ続く道を下り、頂上直下の短時間の「急登」に挑戦して13時前に「奥三角山」を後に、14時には小別沢へ下山しました。三角山に登頂してからの下りでは、スリップして涙を流したり、登り返しに心が凹んだり、「山あり谷あり」アップダウンの登山道を皆で励まし合いながら「縦走登山の醍醐味」を感じることができました。

都会からバスで気軽に自然と触れ合いながら登山を楽しむことができる札幌の山の魅力を再確認することができました。

【スタッフ】 小野倫夫会長 為野宜己 本林尚之 高見直広

8月8日の「親子スポーツクライミング教室」には児童生徒11名、保護者6名、講師・スタッフ8名で実施

北海道山岳連盟「北海きたえーる」開放事業をすすめてくださっている石井副会長、橋村さん、林さんに指導をお願いしながら、3時間たっぷりスポーツクライミングに挑戦しました。

はじめてクライミングするお子さん、保護者さんにとっては、最初は難しかったようでしたが、回数を重ねていくうちに、体の動かし方や足の置く位置や入れ替えを工夫したりして、夢中になっ

て、終了時間近くなってもまだ登りたいお子さんがたくさんいました。「きたえーる開放」で登っている人のムーブを見て、ヒントをつかんで挑戦して、さらに高くまで登ることのできたときの喜びの表情を見ることができました。また、お子さんが壁に挑んでいる姿を写真に撮って、笑顔で見上げて励ましている保護者の皆さんの笑顔にも、ビレイしている私たちもうれしい気分になりました。

【講師】石井昭彦副会長 橋村昭男 林千里夫

【スタッフ】小野倫夫会長 為野宜己 玉木とし子 高見直広



三角山頂上

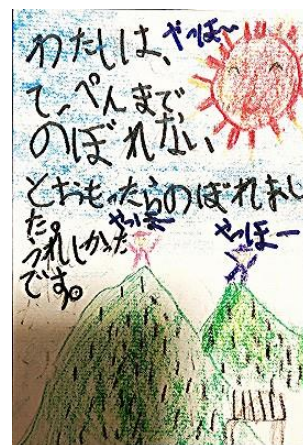


スポーツクライミング

2日間の事業で「親子」で登山・クライミングを通して絆をふかめている様子を見ることができ、本当にうれしい気持ちにさせていただきました。

事業の周知期間が短く、参加者がいなくて不安な気持ちもありましたが、札幌山岳連盟さんやきたえーる開放に来ている皆さんが盛り上げていただき、初めての登山の「出会いの場」を提供できたことにホッとしているところです。小野会長をはじめ仲間に皆さんのご協力がなくては絶対にできない事業でした。心より感謝申し上げます。

最後に今回登山とクライミングの両日に参加していただいた3人姉妹のお子さんから、素敵な「絵手紙」を頂戴しました。私たちこそ感謝の気持ちでいっぱいです。感動しています。「山の楽しさ」を味わうことの大切さをこれからも大事にして、楽しく安全な登山にふれあう機会を続けていきたいと思っています。ありがとうございました。



(文責 ジュニア委員長 高見 直広)

今後の諸行事

令和元年度安全登山指導者研修会「東地区」

1. 期 日 令和元年9月14日(土)～16日(祝)
2. 会 場 東川町キトウシ森林公園・旭岳

北海道トレイルランニング大会 2019 in ルスツ

1. 期 日 令和元年9月21日(日)
2. 会 場 ルスツリゾート・貫気別岳周辺

第58回全日本登山大会 岐阜大会

1. 期 日 令和元年9月28日(土)～30日(月)
2. 会 場 高山市・下呂市

第74回国民体育大会(茨城国体スポーツクライミング競技)

1. 期 日 令和元年10月4日(金)～6日(日)
2. 会 場 茨城県鉾田総合公園体育館ほか

第2回理事会

1. 期 日 令和元年10月6日(日)
2. 会 場 札幌市教育文化会館

自然保護指導員の集い

1. 期 日 令和元年10月13日(土)～14日(日)
2. 会 場 増毛山道

日高登山研修所納会・安全登山研修会・各専門委員会

1. 期 日 令和元年11月2日(土)～3日(日)
2. 会 場 日高登山研修所

第18回スポーツクライミング北海道選手権大会

- 兼 第10回全国高等学校選抜クライミング選手権大会北海道予選会
兼 第59回札幌市民体育大会クライミングコンペ
1. 期 日 令和元年11月10日(日)
 2. 会 場 北海道科学大学体育館

スポーツクライミングコーチⅠ養成講習会(後期)

1. 期 日 令和元年11月23日(日)～24日(月)
2. 会 場 札幌市教育文化会館

冬期遭難対策研修会

1. 期 日 令和元年12月7日(土)～8日(日)
2. 会 場 十勝岳連峰周辺

山岳スキー指導員研修会

1. 期 日 令和元年12月14日(土)～15日(日)
2. 会 場 ニセコスキー場・白樺山

各事業の要項等詳細は、道岳連HP各委員会のページを参照ください。

道岳連だより

北海道山岳連盟広報 No.87 令和元年9月10日発行

発行 北海道山岳連盟 事務所 札幌市豊平区月寒西3条10丁目2-48

発行責任者 小野 倫夫 編集担当(総務) 内藤 美佐雄